

# NPO法人 花菖蒲とふるさとづくりの会

地域観光拠点を目指して

私たちの運営する「播州山崎花菖蒲園」では、1,000種、100万本の菖蒲をはじめ、季節に応じてあやめや石楠花など色々な花々が目を楽しませてくれます。いまの時期ならツツジや水仙が見ごろでしょうか。

この菖蒲園は、関西電力の子会社、関西テックが26年にわたって経営してきたのですが、子会社の統合によって同社が集約されることになり、経営譲渡される方向で話がすすんでいました。平成16年新春に、前山崎町長からこのことについて相談を受けたときには、町で引き受けてもらうよう助言しましたが、4町合併を控え、財政状況が厳しいなかで、それも難しく、私たちにお鉢がまわってきたという次第です。

昨年の菖蒲の最盛期



菖蒲園の設立当時の投資額は、150ヘクタールに及ぶ山地買収に、施設整備、菖蒲、あやめ、石楠花、紫陽花の植栽費用など、しめて20億円を下らない金額です。さらに、開園期間が3カ月、うち実質2カ月余りしか収入がないため、その金額では、一年を通じ菖蒲、石楠花の世話をしている10人の従業員の給料にしかなくなってしまいました。年間6千万程度の赤字が出ている現実にも、とても私たちに運営できるとは思えませんでしたが、しかし、私たちが断れば、制限なしで売却されてしまい、地域で重要な役割を果たしてきた菖蒲園がなくなってしまう可能性が高いことから、引き受けざるを得ませんでした。

園内整備ボランティア



しかし、商品である花のことも、園内経営、観光業界のことも何もかもわからないことばかりです。地域の公益性やボランティアでの関わりという面を考えると、特定非営利活動法人(NPO法人)で運営していくことにしました。そして、買い取り費用、設備の補修、運転資金を無返済覚悟で出し、理念に共鳴し、運営に参加してもらえらる16人の理解者を得て、平成16年10月1日に特定非営利活動法人花菖蒲とふるさとづくりの会として出発しました。

ところが、出発と同時に台風23号に見舞われます。園内は倒木で荒れ放題になり、特に石楠花が倒れてしまつて開園も危ぶまれるほどになりましたが、多くの人たちに助けられ、平成17年4月に開園することができました。何もわからず見よう見まねで、誰もが本業もそつちのだけで懸命にこなした結果、なんと赤字をまぬがれ乗り切ることができたのです。

菖蒲園は、一年に2カ月しか収益が得られない一方で、開園に備えて植物を一年中育成しなければならぬため、ボランティアの方々には頼らなくては運営できません。弁当持参で、通勤費はもちろん「当も

出せず、開園中も無償でお手伝いを願わなければならぬような状況です。

将来にわたって継続していくためには、開園期間を延長するしかないと考えています。そのためには、菖蒲、石楠花を一年中咲かすことはできないので、他の季節に咲く樹木を植栽したり、花以外の目的で来園してもらうしかけることが必要です。例えば、150ヘクタールの山林を生かし山野草、山菜狩り、キノコ狩りを楽しめるようにし、それを利用した特産品づくりや、食事場所の充実、売店の設置へと夢がふくらみます。

さらに、毎年株分けをする菖蒲の育成販売の拡大など、智慧を絞れば何とかなるような気がしてきています。昨年から、少し自生していたホテルでナイター営業に取り組みました。また、タケノコ、ワラビ、タラの芽、ウドなどの自生の山菜山に自生しているキノコ、新しく栽培しはじめた椎茸、マイタケ、ヒラタケ、なめこなどの地域の食材を、細々ですが食堂で提供しています。将来は、キノコ園をつくって、キノコ狩りの後、キノコを料理にして提供できる設備をつくり、あわせて紅葉も楽しめるような施設にしたいと考えています。

いまの取り組みが実を結びることによって、一年を通じて開園ができるようになり、多くの人が納得して働くことができ、そのことが地域のお役に立つことになれば、当初の目的の達成に近づいてくると考えています。

昨年4月中旬つつじ、水仙、石楠花

昨年4月中旬つつじ、水仙、石楠花



昨年のナイター営業のホテル

**NPO法人 花菖蒲とふるさとづくりの会**  
副代表 三渡啓介  
〒677-1253 2 宍粟市山崎町高所62-1  
TEL(07990)6217727  
FAX(07990)6218734